



投資日報

established in 1964

Investment
Weekly Report

8/21 月

発行 株式会社投資日報社
www.toushinippon.co.jp/

第9巻 第32号 通巻408号

北朝鮮問題の本質

金融アナリスト
永山卓矢

— 欧米二大財閥のそれぞれの思惑と戦略 —

【中国に市場開放を強要する欧州系財閥】

米国と北朝鮮との間で軍事衝突の危険性が高まっている。

8日にトランプ米大統領が「北朝鮮は米国やその同盟国に脅しをかけると世界がこれまで見た事がないような『炎と怒り』に直面するだろう」と述べた事がその発端になった。これに対し、北朝鮮側も翌9日に米軍が駐留している米領グアム島沖に中距離弾道ミサイル「火星12」を撃ち込む計画を公表するなどして応酬した事で、双方の「舌戦」がエスカレートしたものだ。

さしあたり、8月15日の終戦記念日(北朝鮮では独立記念日)にミサイルが発射されるとの噂は実現しなかった。

その後、北朝鮮側も金正恩労働党委員長が「米国の行動をもう少し見守る」と表明した事で、足元では緊張がやや緩和している。とはいえ、21日からは米韓合同軍事演習が行われる事になっており、米朝間の推移によっては9月9日の建国記念日に北朝鮮が6回目の核実験やグアム島沖へのミサイル発射に踏み切り、それにより武力行使に発展していく可能性も残されている。

そもそも、北朝鮮の核・ミサイル問題は多分に「ヤラセ」によるものである。北朝鮮で主導権を握っている朝鮮人民軍の幹部は親イスラエルの共和系新保守主義(ネオコン)派に操られているが、この系列が米トランプ政権でも主導権を握っているからだ。本当は金委員長は既に殺されており、現在、表に出ているのはイスラエル諜報員がこしらえた「替え玉」である事は以前、当欄で述べた通りだ。

これまで、北朝鮮が中国が嫌がるミサイル発射や核実験を繰り返してきたのはこのためだ。中国としては絶対に北朝鮮の現体制を崩壊させる訳にはいかないので、米国は欧州ロスチャイルド財閥主導で表向きこの問題で中国に対し北朝鮮に対する原油の供給の全面的な停止を求めつつ、水面下での国際会計基準の導入や資本取引をも含む通商交渉で圧力を強めて揺さぶりをかけてきた。

これまで当欄でも指摘したように、この欧州系財閥は以前には中国が保有している豊富な外貨準備を利用して大規模なインフラ建設を推進し、ユーラシア経済圏の構築に向かう事で米ロックフェラー財閥による世界覇権に対抗しようとした。しかし、中国が天文学的な債務を抱えている実態が明らかになったのでひとまずそれを諦め、米系財閥と提携してトランプ政権の成立に動いた。それによりトランプ大統領の保護主義的な姿勢を利用して中国に対して人民相場を崩落させながら国際会計基準の導入や資本取引の自由化を受け入れさせ、国有銀行や代表的な国有企業を次々に買収していく事を目論んでいる。中国そのものを「乗っ取った」上でユーラシア経済圏の構築に向かうという訳だ。

北朝鮮情勢が緊迫化するとともに、米国は中国側による知的財産権の侵害と技術移転の要求を問題視して通商法301条を適用して調査を開始する事で、通商面で一段と圧力を強めようとしている。米国側によるこの強硬姿勢は、中国側に北朝鮮問題でさらに強かに圧力を強めるように強要するためのものとする解釈が一般的だ。しかし、少なくともトランプ政権を構成している一方の勢力である欧州系財閥は、あくまでも国際会計基準の導入や資本取引の自由化を含む通商面での市場開放への要求がその主目的であり、北朝鮮問題は手段に過ぎない。

【「新冷戦」構築に向かう米系財閥の手法】

ただ、今回の米国と北朝鮮との間での緊張の激化を演出しているのはもう一つの米系財閥の意向によるところが大きいのようだ。

8日のトランプ大統領による「炎と怒り」発言に対し、北朝鮮側がグアム島沖にミサイルを撃ち込む事を公表して以来、事態がエスカレートしていったのは、明らかに大統領と共和党系ネオコン派の傀儡による北朝鮮軍部が意図的に煽った事によるものだ。

中国は共産党大会を終えるまで身動きがとれないのを利用して播きぶりをかけているのが透けて見えるといえよう。

この米系財閥は共和党系ネオコン派やそれにつらなる軍需産業(民主党系ネオコン派につらなる軍産複合体ではない)に主導権を与えて、中国で強権的な性格が強い習近平国家主席に終身的な専制権力体制を樹立させた上で、その中国を「悪の帝国」に仕立てて「新冷戦」構造を構築しようとしている。

江沢民元国家主席を中心に胡錦濤前国家主席までは欧州系財閥にもつらなるゴールドマン・サックスが主導権を握っていたが、現在の習主席は米系財閥直系のブラックストーン・グループとつながっているからだ。かつて、ソ連では欧州財閥系のレーニンやトロツキーを排して米系財閥がスターリンを操り、「恐怖政治」を展開させる事で1950年代に「旧冷戦」構造を構築していったのと同じようなものだ。

ソ連との冷戦が激化していく中で、70年代にはキッシンジャー元国務長官が中国をソ連から切り離して提携していったものだ。今回、米系財閥が共和党系ネオコン派主導で中国を相手に新冷戦構造を構築していくにあたり、ロシアも敵に回すと厄介なので、キッシンジャー元長官はプーチン大統領を抱き込んで、ロシアを中国から切り離して提携していく路線を推進させようとしている。かつて、ソ連と対峙するにあたり中国と提携したのとは反対の構図だが、同じ発想による戦略である。

昨年の大統領選挙では米系財閥は当初、民主党系ネオコン派であるクリントン元国務長官を推したが、この系列はウクライナ問題でロシアと激しく対立したので都合が悪い。トランプ大統領が擁立される事になった一因がそこにある。

トランプ大統領が就任してから北朝鮮に対して強硬な姿勢を示した事で米国と北朝鮮との間で軍事衝突の危険性が高まったのを受けて、中国とロシアは自国内に難民が流入するのを阻止するために北朝鮮との国境沿いに軍隊を差し向けた。

ところが、北朝鮮側はロシア軍だけ自国内に引き入れて中国の人民解放軍にはそれを認めていないが、北朝鮮は共和党系ネオコン派に操られているのだから当然である。おそらく、中国政府は北朝鮮国内に人民解放軍を侵攻させて金委員長を殺害し、現体制を維持しながら親中国的な政権を樹立させるつもりでいたのだろう。しかし、北朝鮮国内に駐留する事になったロシア軍が牽制しているため、中国軍は中朝国境で身動きが取れずにいる。

【世界最大のウラン鉱石埋蔵地帯をめぐる争い】

もう一つ指摘すべきなのは、朝鮮半島北部は核兵器や原子力発電の原料であるウラン鉱石の埋蔵量が世界最大を誇ると見込まれている事だ。この地域を押さえれば、核保有をめぐる競争でもエネルギー戦略でも圧倒的に優位に立てる事になる。オバマ前政権末期にロシアが核戦力の縮小に向けた交渉の継続を拒否したり、トランプ大統領も核兵器を増強する姿勢を示したのはこのためだろう。

エネルギー産業では石油産業から興った米系財閥が天然ガスを含む火力発電の分野で圧倒的に優位な地位を占めているのに対し、原発では欧州系財閥が有利な状況だ。ただ最近では、2013年3月11日の東日本大震災の発生に伴う東京電力福島原子力発電所の事故を受けて世界的に反原発ムードが高まった事で、欧州系財閥の原発産業が打撃を受けている。

米系財閥がプーチン政権下のロシアと提携して朝鮮半島北部のウラン鉱石の埋蔵地帯を手に入れば、欧州系財閥に対して圧倒的に優位な地位を確保する事ができる。また地政学的な面から見ても、ロシアと提携した米国は、新冷戦構造のなかで「一帯一路」構想で結ばれつつある中国と欧州が提携した勢力に対しても有利な地位に立てる事になる訳だ。

永山卓矢の「マスコミが触れない国際金融経済情勢の真実」

詳しくはこちらへ → <http://17894176.blog.fc2.com/>

テクニカル フォーメーションを注視

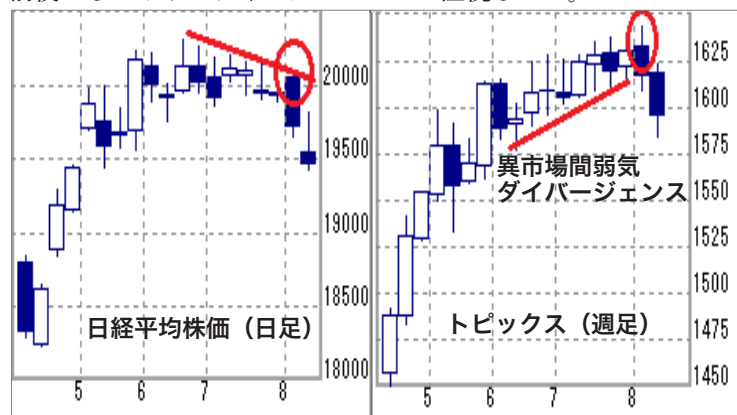
日経平均株価の下げは続いている。先週のコメント「5月以降の高値圏保合から下放れの兆しを見せた。以前から警告していた保合13本目からの放れ。ボリンジャーバンドは収縮極限状態から先週拡大に転じた。通常なら3カ月の保合で貯めたエネルギーの放出は、数週間のトレンドを形成してもおかしくない」。トピックスとの異市場間ダイバージェンスも決定的となった。これについては8月7日号で次の通りコメント「TOPIXは上昇ウェッジ。日経平均は6月以降2万±300円でレクタングルを形成。弱気ダイバージェンスが解消されない限り、テクニカル上は下放れを警戒しておく必要がある」。

ここまでは日経平均の年間高値が6月20日、トピックスは8月7日。異市場間弱気ダイバージェンスが見事に決まった。現在の下値目標は先週述べた通り。「以前参考に使っていたフォーメーションは、昨年12月末から今年3月中旬にかけての保合。その後、下放れて4月17日のボトムまで約3週間強下げた。……ギャップダウン当日の高値からボトムまで5%の下落率であった。今回は8月9日のギャップダウンを同じ起

点とすれば、下値の目処は18,947と算出。18営業日後は9月5日あたりとなる」。

同じ経路を辿るかは依然として疑問だが、これを最悪の状況として、強気にとってはこの下げを買い拾う事だとも述べた。

現段階では2万円を超えて引けるまでは下げトレンドが続いていると認識。目先の攻防は1万9,200～400。9月5日の週前後からはボトムフォーメーションに注視したい。



今週の必読押し

ユーロ売りは正念場

総じて、先週も実に水星逆行期間らしい相場展開であった。米国では週末にかけて政府要人の退任を巡る虚々実々が流れ、バージニア州白人至上主義者のデモを巡る死傷事件でのトランプ大統領の発言も相まって政界が混乱。市場不安が株安に飛び火した格好となった。ドル/円相場は4月以来の安値を記録。しかしユーロ/ドル相場は大きく上昇する事なく、1.1750付近で右往左往。ひとえにこの動きはドル指数の動きとリンクしていると思われる。

8月2日に92.39を記録して以降、ドル指数はジリジリと値を切り上げている。18日は米国債も金も買われた。保有資金を安全資産に移す投資家心理は働いているが、避難させる確固とした場所が決まり切っていないという印象。VIX指数も、ここ2週間急上昇しているが16付近まで上昇した所では下落。これは、恐らく嵐の前の静けさと言えるのではないかな。

ユーロ/ドルに話を戻すと、今週は1月3日の安値から33週目。フラッグと呼ばれる短期保合い線形になっているが、17日に1.1662まで下落し、23日移動平均を割り込んだので8月2日の1.1903が目先の高値である事が確認された以前から当欄では下げ場面に「(目先の高値から)少なくとも2週、長くて5週程度の日柄は必要だろう」と述べていた。もしそうであれば先週が2週目。6月も23日移動平均を8営業日下回った後に急騰しただけに、今週が売りの正念場と言える。用心も兼ねて売りポジションは幾許か利食いして身を軽くして良いかも知れない。

ただ、目先の下値目標はこれまでと変わらない。即ち「チャートを見ると、日足、週足共に1.1500に第一関門となる下値サポートが存在する。更にこれを割り込むと、1.1250に次の目標値が設定される」。現在ここで示した第一関門と69日移動平均が近接している。少なくともこの付近まで下落していれば、一度売り玉を全て利食いして様子見を図るのが望ましい。以前から指摘の通り、この相場は1月に長期相場サイクルの底をつけた。長期的に見ると、大きく下げた場面は買い場になると見る。

高く仕入れて安値で投げる投資家から
脱却してアクティブブシニアになろう！

四半世紀以上、投資の最前線で活躍してきた
「プロ中のプロ」が語る現在の株式市場とは

- ◎マイナス金利時代に株を持ち続けて成功する秘訣を解き明かす
- ◎10倍になる株など豊富な実例で銘柄発掘の心得を公開！
- ◎株式投資の実践編として〈有望銘柄掲載〉！

株で資産を
蓄える
足立真一

株で資産を蓄える

～バフェットに学ぶ失敗しない長期株式投資の法則～

S・アダチ&カンパニー
代表取締役社長

足立 真一 著

発行：開拓社 定価：1,296円(税込み)



今週の相場風林語録

下がる理も(上がる理も) 時至らねば下がるまじ(上がるまじ)
売りせきするは(買いせきするは) 大たわけなり【2】

あれこれ自分が思っても、上がる時、下がる時が来るまでは、どうにもならないのが相場である。そして、その時を待つのが相場。

今週の九星★波動 一本調子というよりも

南雲 紫蘭

先週この欄で指摘した「忍び寄る不安の影」、即ち日本株とNYダウのダイバージェンス状態、NY市場におけるダウとS&P500、ナスダックのいわゆる異市場間弱気ダイバージェンス状態はいったんの急落となって示現しました。

円高も一時110円割れとなり一気に弱気状態になりました。さて問題は「リスクに晒されたら一気に下がる」という状態は既に終わったのでしょうか。白人至上主義を陰ながら応援していると思われるトランプ大統領、チキンレースとなりつつある米朝関係、態度のはっきりしない韓国など、地政学的リスクが全く減少しない中で、この急落だけで終わりとは簡単には思えないのですが…。それとも、今回の急落は単なる「予兆」に過ぎず、本格的な下落は10月なのかもしれません。ここからの上げは、もちろんあり得るのですが、振り返れば「虚勢であった」となる可能性が高い点には注意が必要でしょう。

相場指南道場

トレーダーあすなろ物語 (408)

中原 駿

リスクは一見、小さそうに見えるが、実は一番利上げの局面では大きく売られるのは中期ゾーンであった。

特に5年から7年のゾーンは大きく値下がりしやすい。

実際、グリーンスパンFRB議長が実施した「予防的利上げ」においても、大きく金利が上がったのはこのゾーンであった。

したがって、利上げが続く局面では金利が上がりやすい中期ゾーンを外して、短期ゾーンと超長期ゾーンあるいは長期ゾーンでポジションを作るいわゆるバーベル（真ん中を減らして両端を大きく持つ）ポジションが定石だった。

実際、上野の今までのポジションも超短期（資金繰）、短期（2年ゾーン）、超長期（10～30年ゾーン）の組み合わせであった。

第六感の M 型ボトム最後の詰め



テクニカルアナリスト 葛城 北斗

ドル円とNY金の波動（3）

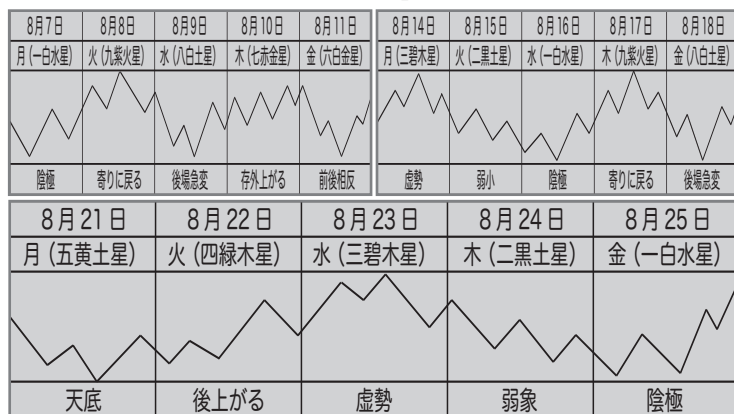
本欄ではここまでドル円とNY金の波動を参考にしてきたが、ドル円相場は11日に安値を付けた後、先週は2円強反発。しかし週後半は売られ、安値を再テスト中。3週間前のコメントになるが「7月11日高値から二段下げの様相。この下値目標値は108.31±0.46。6月安値更新は4月安値に迫るがこのケースでは1年サイクルの位相にトラブルが生じる……。1年サイクルのボトムを付ける時間帯は4～8月である。ダブルボトムの様相を示す事になろう」。1年サイクルボトムの時間帯は最長で8月一杯。もし4月安値が更新されれば107.10±0.87。

現行7～11週サブサイクルは今週、10週目となる。いつボトムアウトしてもおかしくないが、現段階では11日安値を付けた後のダメ押し的な下げと見られる。前サブサイクルのボトム時でも6月7日に安値を付けた後、14日にダメ押し的な下げをもってサブサイクルはボトムを付けた。所謂ダブルボトムであるが、この可能性を示唆しながらも最大で8月いっぱいまでの下げは考慮しておくべきことだろう。それについては先週述べた通り。「1年サイクルボトムは8月中に付けたとすれば、サブサイクルは11週以内に収まる。現段階におけるサイクルベースでは許容範囲が広くなり、ピンポイントで予想することは難しい。ただ、下げは8合目から9合目、あるいは既に10合目近辺まで来ていると考えている」。

金相場をモデルとしたフラクタルでは2週間前のコメント

さて九星高下伝で月盤《二黒土星》も後半戦。弱象を意味する二黒土星ならではの下落が示現したともいえましょう。

そう考えると、ここから一本調子に上がるというより、やはり「強気心理の中、じり安を続ける」ような気がしてなりません。



実際には、超短期のショート、短期のショート、超長期のロングという組み合わせで変則的ではあったが。

この超長期のロングポジションを維持しながら、短期のショートをなくして、中期ゾーンをロングする。

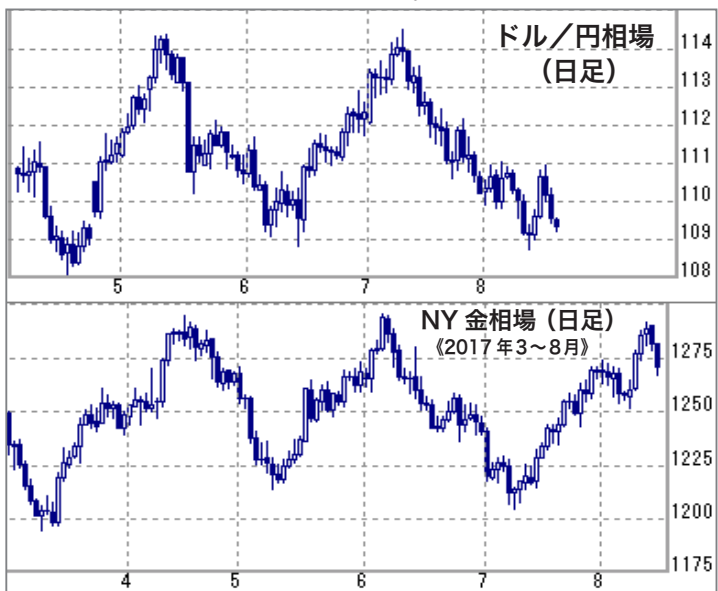
全体としては今まで上野が維持してきたスクエア（短期のショートと長期のロングで見かけ上はリスクをとっていないように見える）をやめる、ということであった。

つまり、上野のシンガポール支店は、今まで見かけ上は慎重なスタンスであり、全支店において最も保守的とみなされていた。

しかし、この中期ゾーンを買っていくことで、シンガポール支店も大きなポジションを取り始めることになった。

上野は今までの偽装を、ある意味捨てようとしていた。

「現在のドル円相場の下げが金の6月の動きを再現している。今後期待されるのは、金が7月にM型の安値を付けて反発したような動きがドル円でも再現されるか注目したい」。そして先週のコメント「今まさにこのシナリオ通り展開されている。フラクタルのM型フォーメーションでいけば、日柄、値幅ともにまさに今がボトムである。これにかけるなら107円以下の引け値にストップを置き今週買いで攻めることになる。ボトム打ち後は現在の金が前の高値に迫っている如く、ドル円相場も同様の展開が期待できる」。今の処ストップを同様に設定しこの安値を買い拾うことに専念したい。



サイクルだけ話します。

— メリマン・サイクル理論 備忘録 —

【第53回】ドル指数のサイクルについて (8)

長期16年安値サイクルと大統領選サイクル、16年天井サイクル等から、ドル指数は2017年1月3日の103.82でトップアウトした公算が高い — と、いうのがこれまで記述での結論。前16年サイクルも、現行16年サイクルも、起点から106カ月(3年10カ月)後に高値が出現。そこから下落しています。

更に前週の当欄では1月にトップアウトした相場が、16年大統領選サイクルの観点から2024年に底打ちする可能性があるとし、更に先週の当欄では“前16年サイクルの天井からボトムまでは80カ月(6年8カ月)。2017年1月から80カ月後は2023年9月。従って日柄の観点でもこの付近で底打ちする可能性が出ています”と述べました。

ただ、相場はいつまでも下がり続けるわけではありません。大きなサイクルには、必ずサブサイクルが内包されます。昨年10月の分析では、1992年以降で7回、平均37カ月ごとに節目となる安値が出現していると指摘。2014年5月8日の安値78.91を起点とした相場は、そこから36～39カ月後に次の節目となる安値をつけるのではないかと予測しました。

メリマン通信 — 金融アストロロジへの誘い —

週初と週末の大きな変動に注意

金融アストロロジに必ずしも明るくない人達の中でも月齢と水星逆行の時間帯をチェックしている人は存外多い。為替取引を専業とする会社や、株式専門誌が年末に配るカレンダーに、月齢や水星逆行期間が記されているものがあつたりする。

水星逆行の特徴は不安定さと不規則性であると筆者は考える。以前から筆者は、逆光開始日と終了日、中間点とシャドウ抜けの時間帯が相場の反転ポイントになりやすいと指摘しているが、動きに一貫性がない。上記の時間帯を節目に上下変動を繰り返すと思うと、一本調子に相場が進んだり、時にはウィップソー(のこぎりの歯)のように不規則に細かい上下変動に見舞われるケースもある。しかも、通常なら連動、性のある相場がこの期間中ではバラバラに動いたりする。

今回の水星逆行は、どうやら線形的にはウィップソーパターンのような気がする。前週末から先週頭にかけて反転したと思われた各種相場は、先週再度反転して大きく動いている。



1月3日から下落を始めた相場は、8月2日に92.55まで下落したところで反発。執筆時点で6カ月ぶりの陽線になっていますが、ここは14年5月から39カ月目にあたり、ここがサブサイクルボトムであった可能性が。もしそうであれば、この8月安値から新たなサブサイクルが始まっている事になります。

また、この37カ月サイクルを更に細かく見ると、最短で15カ月、最大で24カ月、平均で19カ月のサブサイクルが2つ内包されており、8月安値は14年5月から39カ月目であると同時に2016年5月3日の安値91.92から15カ月目で、16年5月安値が第1サブサイクルのボトムなら、8月安値は第2サブサイクルのボトムであったと考える事が出来ます。

基調全体の強弱を問わず、全てのサイクルの序盤は強気です。ここまでの見方が正しければ、現行相場は16年5月安値を割り込む事なく、しばらく反発するのではないのでしょうか。線形的にはダブルボトムと見る事が出来ます。過去の相場を見ても、どんなに弱気でも安値から1カ月の上昇場面はあります。最大で4カ月程度の上昇場面はあるのではないのでしょうか。

ただし、これまでの長期相場サイクルの記述から鑑みて、1月3日の高値は恐らく更新しないと思われます。戻ってもダブルトップが限界と見ますが、果たしてそこまで戻るかどうか。これについては次回、週足サイクルで解析して行きます。

一方、NY原油やユーロ/ドルのように独立独歩の道を歩んでいるケースも。今回の逆行では見受けられる。私見ながら、過去のこのような水星逆行期の相場では、往々にして逆行中間点で相場が大きく変動するケースが多いような気がする。

また先週紹介した8月15～25日の金星・木星・天王星・冥王星カーディナルグランドクロス時間帯も要注目。米国時間17日の金星・木星スクエア(90度)付近で株式は大きく下げ、金と原油は大きく上げ、このうち金は長い上ヒゲを作った。この天体位相が目先の相場変動に関与するなら、日米の時差も考慮して24～25日の金星・天王星スクエア形成場面は変化日として重要視されるべきだろう。ここは25日の土星順行や26日の水星逆行中間点とも近い。今週末は大きな反転ポイントか。

ただ先般、今回の水星逆行の相場は「ウィップソーパターンのような気がする」と述べた。そこで注目すべき時間帯が米国時間21日(日本時間22日)の皆既日食。先週も触れたが、ここは米トランプ大統領の出生図や北朝鮮の始原図とも関連性が。逆行中間点が大反転ポイントなら、ここは一大ダマシポイントになる。今週は週初と週末の大きな相場変動に注意したい。

WEBサイトより一足早く、1週間分まとめ読み！！

今週のアストロロジ info

- 8月21日(月) 日食前の静寂に警戒
- 8月22日(火) 日食：ダマシが頻発しやすい
- 8月23日(水) 22日の動きに対して余韻残す
- 8月24日(木) 23～25日変化日
- 8月25日(金) 金、その他商品、CRBの変化日 28日も含む
- 8月26日(土) 逆境を楽しみ、順境を警戒せよ
- 8月27日(日) 技術、実力だけで勝てない部分もある

2017年
夏季勉強会
DVD

フォーキャストのその先へ

遠方でお越しいただけなかったお客様のために、毎年恒例7月勉強会を録画し、DVDで販売いたします。税務のプロによる、投資家が避けては通れない「相続」に関する話を第1部で、四半期ごとに分析しているドル、ユーロ、円の動き、日米株式市場や金価格の現状と今後の展開については第2部でお話しています。

講師	＜第1部＞ あらためて知っておきたい「相続」の話 税理士 西村 侯政氏	収録時間	第1部 76分 第2部 117分
	＜第2部＞ 2017年 第3四半期の各種相場分析 株式会社投資日報社 代表取締役 鈴木 高明	価格	10,800円(税込) *WEB限定価格(新規購入には「会員登録」が必要です)
		購入特典	【特典1】勉強会当日に配布した資料 【特典2】10月勉強会特別価格ご参加権 14,040円→10,800円

■ 詳細・お申し込みはこちら

(株)投資日報社 電話: 03-3669-0278 <http://www.toushinippou.co.jp/>
東京都中央区日本橋人形町3-12-11GRANDE人形町6階 <Category>内の【DVD・CD】からお申し込みください